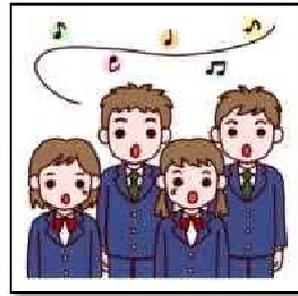


希 望

(題字の「希望」は校歌の一部から抜粋しました)



二十一年度を振り返って

学校長 播磨 正一

12日に第11回卒業証書授与式が行われ、3年生24名が卒業しました。卒業生は240名になりました。本日1、2年生は修了証を手にし、2、3年生に進級です。そこで、今年1年間のまとめとして、いくつか振り返ってみたいと思います。

一番に思い浮かぶのは、本校に限らず、ほとんどの学校で対応に苦慮した新型インフルエンザではないでしょうか。3年生の修学旅行が国内初感染者が出た時期とぶつかり、途中で引き返すことも覚悟して旅行に出ました。秋には各地に広まり、次々と学級閉鎖や休校に。本校のように寄宿舎生活している学校はどうなるのかと心配し、対応マニュアルを作成してはいましたが、やはり感染力は強いものでした。休校が1回で済み、学校祭を無事開催できたのも、生徒たちが毎日予防に努め、帰省などで保護者のご協力があったお陰と感謝しております。今回の経験を今後も起こるであろう感染対応に活かしてまいります。

次は、やはり生徒の頑張りや成長です。7月に行われた全道知的高等養護学校体育大会では2年連続の総合3位。その前が

平成 22 年 3 月 24 日発行
学校だより
第5号
北海道今金高等養護学校
〒049-4304
瀬棚郡今金町字今金 454-1
TEL 0137-82-3121
FAX 0137-82-3092

2年連続2位でしたから、4年連続表彰台に上がっているのです。全道で一番小さい学校規模から考えると快挙です。次年度が最後の大会となるので、残すは優勝のみと今から気合いが入っているところです。現場実習は各学年で個々に目標を持って取り組みました。1年生にとっては、初めての体験で働くことの大変さを味わったことでしょうか。2年生は進路の方向性を決めることに繋がることから、まさに真剣勝負でした。実習を終えて戻ってきた顔は一回り大人になり、頼もしく思えました。そして、もっとも感動したのは学校祭です。新型インフルエンザの影響で練習時間が短くなり、全員が揃わないなど苦難の連続でしたが、この逆境をはねのけ、見事な団結と自分自身に勝った姿を見せてくれました。

もう一つ、それは平成22年度の入学選考検査で、本校が全道一の倍率になったことです。定員を8名もオーバーしたことから、3名多い27名を合格にしましたが、5名の希望を叶えることができませんでした。今回のことは何を現しているかというと、近年特別支援教育を受ける児童生徒が急増していることです。先日もニュースで特に都市部で著しいと報道されましたが、都市部に限らず全国的に増えていることの証左だと思います。急増による高等養護学校入学のピークは、平成25年度と報告されていますが、予想を上回る増加に追いついていけないというのが実態のようです。この難関を乗り越えてきた新入生を4月に迎えることに気を引き締め、新年度に向け準備を始めたいと思います。

まだまだたくさんあり、この紙面では足りません。続きはお子さんと一緒にこの1年を振り返り、その成長を確認してください。

この一年のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

ピリカふれあい歩くスキー大会

2月7日(日)、ふれあい歩くスキー大会がピリカ遺跡歩くスキーコースで行われ、本校から生徒21名、職員16名の計37名と保護者2名が参加しました。雪がちらつく天候の中、3km、5km、8kmのコースに分かれて完走を目指しました。今年からコースが変更になり、全員が完走することができました。

また、レース後には餅蒔きがあり、餅を拾って楽しむことができました。大会を運営し、いろいろな配慮をしていただいた事務局の方々、ありがとうございました。

高校生男子の部		高校生女子の部	
1位	佐藤亮太	1位	酒井
2位	大久保幸平	2位	松田千華
3位	福田 裕	3位	松尾

* その他、一般の部では、本校職員4名が表彰されました。



第11回卒業証書授与式

3月12日に、多くの来賓や保護者が集まる中、第11回卒業証書授与式が行われました。親元から離れて生活するということで、入学当初は不安で一杯でしたが、3年間でたくましく成長して、全員立派に卒業証書を受け取りました。

全員の進路先が決まったので卒業なので少しは安心して送り出すことができましたが、彼らを待っている社会は決して甘い物ではありません。しかし、社会人として学ぶ姿勢を忘れず、自立に向けて努力をしていけば、周囲の人たちが応援してくれますので、今後もエールを送り続けたいと思います。

